

会社名 株式会社さいか屋
 代表者名 代表取締役社長 山野井 輝夫
 (コード番号 8254 東証スタンダード市場)
 問合せ先 常務取締役執行役員 中野 宏 治
 (TEL. 046-822-8046)

上場維持基準の適合に向けた計画書に基づく進捗状況について

当社は2022年11月25日に「上場維持基準の適合に向けた計画に基づく進捗状況について」を提出し、その内容について開示しております。2023年8月末時点における計画の進捗状況等について、下記のとおり作成しましたので、お知らせいたします。

記

1. 当社の上場維持基準への適合状況の推移及び計画期間

当社の2023年8月末時点における「スタンダード市場」の上場維持基準への適合状況は、以下のとおりとなっており「流通株式時価総額」については基準を充たしておりません。当社は、「流通株式時価総額」に関して2024年8月期までに上場維持基準を充たすために各種取組みを進めてまいります。

		株主数 (人)	流通株式数 (単位)	流通株式時価総額 (円)	流通株式比率 (%)
当社の 適合状況 及び その推移	移行基準日 時点	2,236人	16,248	681,533,433円	51.8%
	2022年8月末 時点	2,525人	16,644	483,692,795円	33.5%
	2023年8月末 時点	2,414人	13,628	493,686,254円	27.4%
上場維持基準		400人	2,000	1,000,000,000円	25.0%
適合状況		適合	適合	不適合	適合
計画期間				2024年8月	

※当社の適合状況は、株式会社東京証券取引所が基準日時点で把握している当社の株券等の分布状況等をもとに算出を行ったものです。

2. 上場維持基準の適合に向けた取組の実施状況及び評価 (2022年9月～2023年8月)

当社は「常態的な黒字化の実現における企業価値の向上」を目指し、2021年10月5日に発表した「2022年2月期～2024年2月期 さいか屋営業指針について」にある、「店舗成長戦略の策定」、「顧客満足の最大化」、「ローコストオペレーション」、「経営資源(人材、資産)の最大活用」の基本方針を着実に推進した結果、2023年11月7日付『(訂正・数値データ訂正)「2023年8月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部訂正について』にて開示のとおり、8期連続で計上し続けた多額な赤字経営を解消し、9期ぶりの黒字転換を実現いたしました。

各取組に関する実施状況は下記のとおりとなります。

(1) 営業改革

藤沢店にてヤマダデンキが開店したことにより、入店客数の増加等、百貨店ゾーンとの相乗効果が得られたことに加え、賃料収入が拡大いたしました。また、通期を通して行ってきた金・地金買取の好調に加え、グループのシナジー効果を活用した販売促進企画（健康食品の通販広告を神奈川新聞に掲載する等）や、各お取引先様との取引条件改定交渉の実施等の取組みにより、売上高及び収益の増大を実現いたしました。

(2) 外商改革

これまでの店外催事に比べ、ご招待客数と品揃えを拡大して開催した『名匠会』を2023年2月、5月、8月に鎌倉プリンスホテルにて開催し、外商顧客様との顧客接点の拡大と好適商材の発掘をはかりました。加えて、年間を通じた高収益商材の販売強化により、売上高及び収益の増大を実現いたしました。

(3) 人事制度改革

営業改革を支える体制整備として藤沢店・横須賀店に営業部を新設し、より店舗に根差した営業支援体制を構築するとともに、MD統括部に新たに女性管理職を登用することで、当社のメイン顧客層である女性のお客様に寄り添った商品開発を推進する体制を構築いたしました。

(4) 後方部門改革

効率的な後方業務体制の構築を目指し、前期に構築した横須賀店後方部門の本社機能への集約による間接業務の一元化に加え、藤沢店においても、ヤマダデンキ開店にあわせて後方業務体制の効率化を実施しました。また、全社的な業務プロセスの見直しによるコストの見える化を実施し、更なるローコストオペレーションを実行できる体制を構築いたしました。

上記取組みの実施により、2023年8月期累計期間(2022年9月～2023年8月)におきましては、売上高は5,204百万円(前年12か月(2021年9月1日～2022年8月31日)対比109.9%)、営業利益144百万円(前年12か月(同)対比343百万円の営業利益の改善)、経常利益132百万円(前年12か月(同)対比358百万円の経常利益の改善)、親会社株主に帰属する当期純利益9百万円(前年12か月(同)対比280百万円の親会社株主に帰属する当期純利益の改善)となり、9期ぶりの通期での黒字化を実現しました。

これにより、事業年度の末日等以前3か月間の日々の最終価格の平均値(以下「平均株価」という。)は362.25円(前年は290.61円)、期末時点における流通株式数に平均株価を乗じた流通株式時価総額は493百万円(前年は483百万円)と前年比較で微増しております。なお、流通株式数は13,628単位(前年は16,644単位)と前年より減少しておりますが、これは事業法人の増加が主な要因となっております。適合へのハードルは依然として高い状況にありますが、上場維持基準の適合に向けて着実に推移しております。

3. 上場維持基準の適合に向けた今後の課題と取組内容

当社は、一定数の「株主数」や「流通株式数」を維持しておりますが、現状「流通株式時価総額」が基準を満たしていません。上記2.に記載した取組みにより業績を回復させることで、株価の上昇・安定化を図り流通株式時価総額の基準適合を計画しておりましたが、9期ぶりの黒字を実現するなど業績は回復し、微増ながらも上場維持基準の適合に向けて推移しているものの、株価の上昇・安定化が想定通り進捗せず、推移計画に遅れが生じております。事業法人増加により流通株式数が減少している現状においても、株価の上昇・安定化のために、黒字を常態化し、個人株主及び機関投資家の皆様が、より安心して積極的に当社株式を売買できるよう、企業価値を向上させることが喫緊の課題であると捉えております。

今後につきましても引き続き「百貨店事業」、「テナント事業」、「地金等買取事業」の各事業推進に加え、横須賀店においては当社親会社である株式会社AFC-HD アムスライフサイエンスグループのシナジー効果を活かし、子会社である株式会社なすびによる新規飲食店舗「天ぷらと手延べそうめん あさやま」の南館3階へのオープン(2023年12月8日)や、現在長期改装工事中である地下1階への「ヨークフーズ」のオープン(2024年3月下旬予定)をはじめ、藤沢店においても更なる売場編成の充実を実行し、売上高および収益の増大と、継続的なローコストオペレーションによる黒字の常態化を実現してまいります。

加えて、積極的に当社株式の売買をしていただくため、個人株主及び機関投資家の皆様が投資判断に必要な情報をこれまで以上に迅速に発信するとともに、IR活動の強化も推進してまいります。

上記の取組みにより当社の企業価値を向上させることで、「株価」の上昇については「流通株式時価総額」の上場維持基準への適合を目指してまいります。

以上